



みるフルのメンバー

## みるフル

# 学生

地域貢献事業

第20回

世界的な問題になっている食品ロスに  
取り組む団体「みるフル」。2022年に  
設立された新しい団  
体だ。

6月から9月にかけて調査を行った。  
副代表の三田村紗  
歩さんは「予想と異なる結果に驚いた」と話す。「店舗担当者から直接聞き取り調査を行ったところ、私たちが思っているより店側の対応が進んでおり、売り場での食品ロスが非常に少ないことが分かった。

目を向けたのは、小売店に出る食品ロス。実態を調査するため豊橋市内のスーパーマーケット3店舗で、

「店側の取り組み  
は、思った以上に積極的だった。むしろ『家庭でロスが出ないよう、食べきって売りたい時間を見計らっての声かけや、放送でのPR、売りやすい売り場への移動などきめ細かな対応に、感心させられたという。残った食材は総菜の原料や「まかない」などにも活用され、ロス  
はあまり見られなかったのだ。」

## 食品ロスの削減に向けて



スーパーマーケットでの聞き取り調査

「店側の取り組みは、思った以上に積極的だった。むしろ『家庭でロスが出ないよう、食べきって売りたい時間を見計らっての声かけや、放送でのPR、売りやすい売り場への移動などきめ細かな対応に、感心させられたという。残った食材は総菜の原料や「まかない」などにも活用され、ロス  
はあまり見られなかったのだ。」

「店側の取り組みは、思った以上に積極的だった。むしろ『家庭でロスが出ないよう、食べきって売りたい時間を見計らっての声かけや、放送でのPR、売りやすい売り場への移動などきめ細かな対応に、感心させられたという。残った食材は総菜の原料や「まかない」などにも活用され、ロス  
はあまり見られなかったのだ。」

代表の中川晃瑠  
(ひかる)さんは言う。「スイーツビュッ  
フェですごい数を皿に盛り、写真だけ撮って食べ残す人を見ることがある。そういう意識を変えなければ食品ロスは減らせない。」

食品を大切に、丁寧に「食べきる」ことの大切さを伝えたい。食品ロスのない世界を目指し、小さなことからコツコツと、取り組みを続けていくつもりだ。

(大林恭子)  
※協力・愛知大学